

男女共同参画に関する市民意識調査

集計結果報告(速報)

平成28年10月

芦 屋 市

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果		回答割合 (%)	回答件数
問1. 性別			
	女性	55.4	535
	男性	43.0	415
	その他	0.0	0
	無回答	1.6	15
●LGBTの方に配慮し、選択肢に「3()」を設けたが、0件であった。無回答(15人)などにそういった方が含まれるかどうかは不明であるが、選択肢を設けることができたことはよかった。			
問2. 年齢			
	10歳代・20歳代	9.9	96
	30歳代	11.2	108
	40歳代	14.0	135
	50歳代	13.2	127
	60歳代	18.5	179
	70歳代	21.0	203
	80歳以上	11.0	106
	無回答	1.1	11
●年齢は、「70歳代」が21.0%と最も高く、次いで「60歳代」が18.5%、「40歳代」、「50歳代」の割合が高くなっていて、回答者はどちらかと言えば年齢層が高くなっている。			
問3. 職業			
	自営業・会社経営	8.1	78
	正社員・正職員(常勤)	22.2	214
	派遣社員・契約社員	3.6	35
	パート・アルバイト	9.3	90
	主婦・主夫	24.8	239
	学生	4.2	41
	無職	23.4	226
	その他	2.6	25
	無回答	1.8	17
●職業は、「主婦・主夫」が24.8%と最も高く、続く「無職(23.4%)」を合わせると48.2%となっている。			
問4. 未婚別			
	結婚していない	18.3	177
	既婚、配偶者あり	66.4	641
	結婚後、離別又は死別	13.0	125
	その他	0.1	1
	無回答	2.2	21
●未婚別は、「既婚、配偶者あり」が66.4%と最も高い一方で、「結婚していない」は18.3%となっている。			
問4-1. 配偶者・パートナーの職業			
	自営業・会社経営	12.2	78
	正社員・正職員(常勤)	26.7	171
	派遣社員・契約社員	2.7	17
	パート・アルバイト	7.8	50
	主婦・主夫	19.0	122
	学生	0.0	0
	無職	28.1	180
	その他	2.0	13
	無回答	1.6	10
●配偶者・パートナーの職業は、「無職(28.1%)」の割合が最も高く、次いで「正社員・正職員(常勤)」が26.7%となっている。			
問5. 子どもの有無			
	いる	66.9	646
	いない	29.9	289
	無回答	3.1	30

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果	回答割合 (%)	回答件数
問5-1. 末子の年齢層		646
就学前	10.4	67
小学生	7.7	50
中学生・高校生	9.4	61
短大, 大学, 大学院, 専修学校などの学生	5.4	35
学校を終えた	61.9	400
無回答	5.1	33
●子どもは、「いる」が66.9%となっており、そのうち一番下の子は「学校を終えた」割合が61.9%と最も高くなっている。		
問6. 家族構成		965
単身世帯(ひとり暮らし)	12.0	116
一世帯世帯(夫婦, 兄弟, 姉妹だけなど)	37.7	364
二世帯世帯(親と子など)	39.9	385
三世帯世帯(親と子と孫など)	4.2	41
その他の世帯	2.0	19
無回答	4.1	40
●家族構成は、「二世帯世帯」の割合が39.9%と最も高いが、「一世帯世帯」が37.7%と僅かな差で続いている。		
問7. 男女の地位①家庭生活の場で		965
男性が優遇されている	9.5	92
どちらかといえば男性が優遇されている	33.5	323
平等である	40.7	393
どちらかといえば女性が優遇されている	5.7	55
女性が優遇されている	1.8	17
わからない	4.9	47
無回答	3.9	38
問7. ②就職・雇用で		965
男性が優遇されている	15.6	151
どちらかといえば男性が優遇されている	46.4	448
平等である	20.8	201
どちらかといえば女性が優遇されている	2.0	19
女性が優遇されている	0.7	7
わからない	8.9	86
無回答	5.5	53
問7. ③職場の中で(賃金・昇進等)		965
男性が優遇されている	20.0	193
どちらかといえば男性が優遇されている	45.2	436
平等である	19.0	183
どちらかといえば女性が優遇されている	0.6	6
女性が優遇されている	0.4	4
わからない	8.8	85
無回答	6.0	58
問7. ④地域活動の場で		965
男性が優遇されている	2.5	24
どちらかといえば男性が優遇されている	20.9	202
平等である	47.9	462
どちらかといえば女性が優遇されている	6.1	59
女性が優遇されている	0.9	9
わからない	15.4	149
無回答	6.2	60
問7. ⑤学校教育の場で		965
男性が優遇されている	1.7	16
どちらかといえば男性が優遇されている	11.6	112
平等である	61.6	594
どちらかといえば女性が優遇されている	4.0	39
女性が優遇されている	0.3	3
わからない	14.6	141
無回答	6.2	60

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果	回答割合 (%)	回答件数
問7. ⑥政治の場で		965
男性が優遇されている	21.7	209
どちらかといえば男性が優遇されている	41.9	404
平等である	20.7	200
どちらかといえば女性が優遇されている	2.1	20
女性が優遇されている	0.3	3
わからない	8.0	77
無回答	5.4	52
問7. ⑦法律や制度の上で		965
男性が優遇されている	10.8	104
どちらかといえば男性が優遇されている	30.2	291
平等である	39.0	376
どちらかといえば女性が優遇されている	4.2	41
女性が優遇されている	0.6	6
わからない	9.7	94
無回答	5.5	53
問7. ⑧社会通念や慣習, しきたり等で		965
男性が優遇されている	21.3	206
どちらかといえば男性が優遇されている	52.4	506
平等である	14.2	137
どちらかといえば女性が優遇されている	1.8	17
女性が優遇されている	0.3	3
わからない	5.5	53
無回答	4.5	43
問7. ⑨社会全体として		965
男性が優遇されている	12.8	124
どちらかといえば男性が優遇されている	54.6	527
平等である	19.3	186
どちらかといえば女性が優遇されている	1.8	17
女性が優遇されている	1.1	11
わからない	5.9	57
無回答	4.5	43
<p>●男女の平等意識について、「平等である」への回答をみると、「⑤学校教育の場で」が61.6%が最も高く、次いで「④地域活動の場で(47.9%)」、「①家庭生活の場で(40.7%)」、「⑦法律や制度の上で(39.0%)」の順となっている。</p> <p>●「男性が優遇」と「どちらかといえば男性が優遇」されているを合わせた男性優遇意識については、「⑧社会通念や慣習, しきたり等で(73.7%)」が最も高く、「⑨社会全体として(67.4%)」、「③職場の中で(賃金・昇進等)(65.2%)」の順となっている。</p>		
問8. ①結婚は個人の自由であるから, 結婚しなくてもどちらでもよい		965
そう思う	45.2	436
どちらかといえばそう思う	28.0	270
どちらかといえばそう思わない	11.8	114
そう思わない	10.1	97
わからない	2.0	19
無回答	3.0	29
問8. ②夫は外で働き, 妻は家庭を守るべきである		965
そう思う	6.0	58
どちらかといえばそう思う	25.5	246
どちらかといえばそう思わない	18.4	178
そう思わない	43.7	422
わからない	3.8	37
無回答	2.5	24
問8. ③女性は結婚したら, 自分自身のことより, 夫や子どもなど家族を中心に考えて生活したほうがよい		965
そう思う	6.0	58
どちらかといえばそう思う	31.3	302
どちらかといえばそう思わない	21.0	203
そう思わない	34.8	336
わからない	4.1	40
無回答	2.7	26

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果	回答割合 (%)	回答件数
問8. ④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない		965
そう思う	25.9	250
どちらかといえばそう思う	23.3	225
どちらかといえばそう思わない	17.9	173
そう思わない	24.0	232
わからない	6.4	62
無回答	2.4	23
問8. ⑤結婚してもやり直したいときは離婚してもよい		965
そう思う	36.1	348
どちらかといえばそう思う	29.5	285
どちらかといえばそう思わない	12.5	121
そう思わない	9.8	95
わからない	9.4	91
無回答	2.6	25
<p>●結婚・家庭生活についての「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた賛同意識の割合は、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」が最も高く(73.2%)、次いで「⑤結婚してもやり直したいときは離婚してもよい」(65.6%)となっている。</p> <p>●「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」については、賛同意識の割合は31.5%で、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的意識の割合は62.1%となっている。</p>		
問9. 役割分担【A理想】①生活費の確保		965
主として妻	4.0	39
夫婦同程度	26.8	259
主として夫	59.2	571
わからない	4.2	41
無回答	5.7	55
問9. 【A理想】②掃除・洗濯		965
主として妻	44.1	426
夫婦同程度	46.2	446
主として夫	0.8	8
わからない	2.7	26
無回答	6.1	59
問9. 【A理想】③日常のごみ出し		965
主として妻	19.5	188
夫婦同程度	56.2	542
主として夫	15.1	146
わからない	3.0	29
無回答	6.2	60
問9. 【A理想】④食事のしたく		965
主として妻	56.6	546
夫婦同程度	33.7	325
主として夫	0.3	3
わからない	3.5	34
無回答	5.9	57
問9. 【A理想】⑤食事の後片付け・食器洗い		965
主として妻	30.8	297
夫婦同程度	55.6	537
主として夫	4.9	47
わからない	2.5	24
無回答	6.2	60
問9. 【A理想】⑥日常の家計管理		965
主として妻	40.5	391
夫婦同程度	42.4	409
主として夫	6.2	60
わからない	4.8	46
無回答	6.1	59
問9. 【A理想】⑦自治会・町内会活動		965
主として妻	13.8	133
夫婦同程度	54.8	529
主として夫	13.3	128
わからない	11.8	114
無回答	6.3	61

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果	回答割合 (%)	回答件数
問9.【A理想】⑧近所や親せきとのつきあい		965
主として妻	11.4	110
夫婦同程度	75.4	728
主として夫	3.2	31
わからない	3.8	37
無回答	6.1	59
問9.【A理想】⑨家庭における重要な決定		965
主として妻	2.3	22
夫婦同程度	65.2	629
主として夫	24.7	238
わからない	2.2	21
無回答	5.7	55
問9.【A理想】⑩育児・子育て		965
主として妻	22.0	212
夫婦同程度	63.2	610
主として夫	0.4	4
わからない	3.9	38
無回答	10.5	101
問9.【A理想】⑪子どものしつけ・教育		965
主として妻	10.6	102
夫婦同程度	74.8	722
主として夫	1.3	13
わからない	2.9	28
無回答	10.4	100
問9.【A理想】⑫介護		965
主として妻	8.4	81
夫婦同程度	70.2	677
主として夫	0.8	8
わからない	9.6	93
無回答	11.0	106
問9. 役割分担【B現実】①生活費の確保		641
主として妻	5.0	32
夫婦同程度	14.8	95
主として夫	69.0	442
わからない	1.2	8
無回答	10.0	64
問9.【B現実】②掃除・洗濯		641
主として妻	70.8	454
夫婦同程度	17.8	114
主として夫	1.7	11
わからない	0.5	3
無回答	9.2	59
問9.【B現実】③日常のごみ出し		641
主として妻	42.0	269
夫婦同程度	21.2	136
主として夫	26.7	171
わからない	0.3	2
無回答	9.8	63
問9.【B現実】④食事のしたく		641
主として妻	78.5	503
夫婦同程度	9.0	58
主として夫	2.0	13
わからない	0.9	6
無回答	9.5	61
問9.【B現実】⑤食事の後片付け・食器洗い		641
主として妻	62.6	401
夫婦同程度	20.3	130
主として夫	7.3	47
わからない	0.5	3
無回答	9.4	60

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果	回答割合 (%)	回答件数
問9. 【B現実】⑥日常の家計管理		641
主として妻	58.0	372
夫婦同程度	17.5	112
主として夫	13.1	84
わからない	1.6	10
無回答	9.8	63
問9. 【B現実】⑦自治会・町内会活動		641
主として妻	35.3	226
夫婦同程度	22.3	143
主として夫	19.8	127
わからない	12.8	82
無回答	9.8	63
問9. 【B現実】⑧近所や親せきとのつきあい		641
主として妻	29.6	190
夫婦同程度	52.3	335
主として夫	4.8	31
わからない	3.6	23
無回答	9.7	62
問9. 【B現実】⑨家庭における重要な決定		641
主として妻	8.7	56
夫婦同程度	49.3	316
主として夫	31.2	200
わからない	0.9	6
無回答	9.8	63
問9. 【B現実】⑩育児・子育て		532
主として妻	56.8	302
夫婦同程度	24.4	130
主として夫	0.8	4
わからない	1.3	7
無回答	16.7	89
問9. 【B現実】⑪子どものしつけ・教育		532
主として妻	40.0	213
夫婦同程度	40.0	213
主として夫	1.9	10
わからない	1.3	7
無回答	16.7	89
問9. 【B現実】⑫介護		480
主として妻	28.5	137
夫婦同程度	39.8	191
主として夫	2.7	13
わからない	29.0	139
<p>●家庭における役割分担について、「A理想」では概ねどの項目も「夫婦同程度」が最も高くなっているが、「②掃除・洗濯」、「④食事のしたく」、「⑥日常の家計管理」は、「主として妻」が4割を超える一方、「①生活費の確保」は、「主として夫」が6割弱を占める。</p> <p>●「B現実」では、「夫婦同程度」が最も高いのは「⑧近所や親せきとのつきあい」、「⑨家庭における重要な決定」、「⑪子どものしつけ・教育」、「⑫介護」にとどまり、「①生活費の確保」を除く他の項目については「主として妻」が最も高くなっている。</p>		
問10. 介護が必要になった場合、介護をしてほしい人		965
配偶者	33.6	324
娘	8.6	83
息子	1.0	10
娘の夫	0.0	0
息子の妻	0.5	5
その他の親族	1.1	11
ホームヘルパー	15.9	153
介護施設、老人ホーム	32.6	315
その他	1.9	18
無回答	4.8	46
<p>●介護が必要になった場合の希望介助者は、「配偶者」が33.6%と最も高くなっているが、僅差で「介護施設、老人ホーム」が32.6%となっている。</p>		

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果	回答割合 (%)	回答件数
問11. 家族の介護について		965
女性の役割だと思う	1.0	10
女性の役割となりがちである現状に問題はあるが、実際にはやむを得ない	17.4	168
男性も女性とともに介護すべき	46.0	444
性別にかかわらず子どもが介護すべき	3.9	38
介護は社会で担い行うべき	23.8	230
その他	3.0	29
無回答	4.8	46
<p>●家族の介護については、「男性も女性とともに介護すべき」が46.0%と最も高い一方で、「女性の役割となりがちである現状に問題はあるが、実際にはやむを得ない」が17.4%、「介護は社会で担い行うべき」が23.8%となっている。</p>		
問12. 男性の家事、子育て等について		965
男性も家事、子育て、介護を行うことは当然である	58.7	566
家事、子育て、介護を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる	24.1	233
男性自身も充実感が得られる	19.2	185
子どもにいい影響を与える	41.5	400
仕事と両立させることは、現実として難しい	55.0	531
家事、子育て、介護は女性のほうが向いている	19.5	188
妻が家事、子育て、介護をしていないと誤解される	7.0	68
周りから冷たい目で見られる	2.5	24
男性は、家事、子育て、介護を行うべきではない	0.5	5
その他	3.1	30
特になし	1.8	17
無回答	3.6	35
<p>●男性の家事、子育て等については、「男性も家事、子育て、介護を行うことは当然である」が58.7%で最も高いものの、次いで「仕事と両立させることは、現実として難しい」が55.0%となっている。</p>		
問13. 男性が家事、子育て等に参加していくために必要なこと		965
男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	48.3	466
男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす	16.7	161
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる	61.6	594
当事者(夫婦間)の考えを尊重し、周りの人が固定的な観念等を押しつけない	52.1	503
社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域の活動についても、その評価を高める	36.0	347
労働時間の短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多くもてるようにする	45.3	437
男性が家事などに関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	22.3	215
男性の家事や子育て、介護等の技能を高める	21.0	203
男性が子育てや介護、地域の活動を行うための、仲間(ネットワーク)づくりを進める	22.6	218
仕事との両立がバランスよくできるよう、男性向けの参加しやすい講座を開催する	18.8	181
学校の家庭科が必修でなかった(おむね40歳以上の)男性が講座等で家事などの知識を得る	15.4	149
その他	5.1	49
無回答	4.6	44
<p>●男性が家事、子育て等に参加していくために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が61.6%最も高く、次いで「当事者(夫婦間)の考えを尊重し、周りの人が固定的な観念等を押しつけない」が52.1%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」が48.3%となっている。</p>		
問14. ①男女区別せず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てるのがよい		965
そう思う	84.7	817
ややそう思う	11.8	114
あまりそう思わない	1.2	12
そう思わない	0.7	7
無回答	1.6	15
問14. ②男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい		965
そう思う	27.7	267
ややそう思う	29.0	280
あまりそう思わない	28.5	275
そう思わない	12.3	119
無回答	2.5	24
<p>●子育ての考え方については、「男女区別せず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てるのがよい」は、「そう思う」が8割を超えている。また、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」では、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた賛同意識が5割を超え(56.7%)、「そう思わない」と「ややそう思わない」を合わせた否定的意識(40.8%)を15.9ポイント上回るが、「あまりそう思わない」は28.5%となっている。</p>		

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果	回答割合 (%)	回答件数
問15. 子どもの教育について①女の子		965
中学校まで	0.7	7
高等学校まで	4.4	42
専修学校・各種学校まで	1.5	14
短期大学・高等専門学校まで	8.6	83
大学まで	71.6	691
大学院まで	5.9	57
その他	4.8	46
無回答	2.6	25
問15. ②男の子		965
中学校まで	0.7	7
高等学校まで	3.8	37
専修学校・各種学校まで	1.0	10
短期大学・高等専門学校まで	1.9	18
大学まで	73.9	713
大学院まで	11.4	110
その他	4.9	47
無回答	2.4	23
●子どもの教育については、女の子、男の子のいずれも「大学まで」が7割を超えている。		
問16. 子どもに望む生き方【A女の子】①社会的な地位を得るように		965
重要	9.7	94
やや重要	31.2	301
あまり重要ではない	43.3	418
重要ではない	10.5	101
無回答	5.3	51
問16.【A女の子】②経済的に自立できるように		965
重要	51.7	499
やや重要	38.9	375
あまり重要ではない	5.4	52
重要ではない	0.7	7
無回答	3.3	32
問16.【A女の子】③家事等身の回りのことが自分でできるように		965
重要	75.0	724
やや重要	20.6	199
あまり重要ではない	0.8	8
重要ではない	0.2	2
無回答	3.3	32
問16.【A女の子】④自分の意見をはっきりと言える人に		965
重要	65.2	629
やや重要	29.5	285
あまり重要ではない	1.7	16
重要ではない	0.3	3
無回答	3.3	32
問16.【A女の子】⑤本人の個性や才能を活かせるように		965
重要	65.7	634
やや重要	28.6	276
あまり重要ではない	2.0	19
重要ではない	0.2	2
無回答	3.5	34
問16.【B男の子】①社会的な地位を得るように		965
重要	30.7	296
やや重要	38.0	367
あまり重要ではない	18.7	180
重要ではない	6.4	62
無回答	6.2	60

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果	回答割合 (%)	回答件数
問16. 【B男の子】②経済的に自立できるように		965
重要	87.0	840
やや重要	8.1	78
あまり重要ではない	0.4	4
重要ではない	0.1	1
無回答	4.4	42
問16. 【B男の子】③家事等身の回りのことが自分のできるように		965
重要	51.1	493
やや重要	39.3	379
あまり重要ではない	4.0	39
重要ではない	0.3	3
無回答	5.3	51
問16. 【B男の子】④自分の意見をはっきりと言える人に		965
重要	78.8	760
やや重要	15.8	152
あまり重要ではない	0.5	5
重要ではない	0.0	0
無回答	5.0	48
問16. 【B男の子】⑤本人の個性や才能を活かせるように		965
重要	76.5	738
やや重要	17.2	166
あまり重要ではない	1.2	12
重要ではない	0.0	0
無回答	5.1	49
<p>●子どもに望む生き方については、女の子、男の子のいずれも「①社会的な地位を得るように」を除くすべての項目で「重要」が最も高くなっているが、女の子の「②経済的に自立できるように」は「重要」と「やや重要」の合計が90.6%となっている。</p> <p>●「重要」が最も高い項目は、女の子が「③家事等身の回りのことが自分のできるように」で75.0%、男の子が「②経済的に自立できるように」で87.0%となっており、「男は仕事、女は家庭」という固定的役割意識の傾向が少なからずみられる。</p>		
問17. 職業の有無		965
仕事をしている	45.7	441
仕事をしていない	49.4	477
無回答	4.9	47
問17-1. 仕事をしていない理由		477
家事・育児・介護に専念したいから	6.1	29
家事・育児・介護を担わざるを得ないから	3.4	16
家族が働くことを望まないから	1.3	6
経済的に働くことを必要としないから	5.7	27
やりがいのある仕事がないから	1.0	5
就職先を探しているが、見つからないから	2.9	14
リストラにあったから	0.6	3
定年、高齢だから	60.0	286
学生だから	8.4	40
仕事以外の活動(ボランティアなど)をしているから	4.0	19
その他	3.8	18
無回答	2.9	14
問17-2. 今後の就職意向		477
すぐにもしたい	7.8	37
将来したい	13.8	66
するつもりはない	54.3	259
わからない	17.0	81
無回答	7.1	34
問17-3. 希望する働き方		103
正社員・正職員(常勤)	42.7	44
派遣社員・契約社員	2.9	3
パート・アルバイト	30.1	31
内職・在宅就業	6.8	7
家業の手伝い	3.9	4
起業する・経営する	6.8	7
その他	3.9	4
無回答	2.9	3
<p>●職業の有無については、「仕事をしていない」が49.4%となっており、その理由としては「定年、高齢だから」が60.0%で最も高くなっている。</p> <p>●仕事をしていない方のうち、今後の就業意向については、就業したい割合が21.6%となっており、そのうち希望する働き方については、「正社員・正職員(常勤)」が42.7%、「パート・アルバイト」が30.1%となっている。</p>		

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果		回答割合 (%)	回答件数
問17-4. (1)育児休業について			441
	夫が取るのがよい	0.2	1
	妻が取るのがよい	34.0	150
	夫も妻も同じように取るのがよい	57.8	255
	その他	7.3	32
	無回答	0.7	3
問17-4. (2)介護休業について			441
	夫が取るのがよい	0.2	1
	妻が取るのがよい	10.4	46
	夫も妻も同じように取るのがよい	78.9	348
	その他	9.5	42
	無回答	0.9	4
<p>●育児休業、介護休業のいずれも「夫も妻も同じように取るのがよい」が最も高くなっているが、育児休業については、「妻が取るのがよい」が34.0%となっている。</p>			
問17-5. (1)ワーク・ライフ・バランス【希望】			441
	仕事を優先	5.2	23
	生活(趣味や家庭での時間など)を優先	16.8	74
	仕事と生活をバランスよく	76.2	336
	わからない	1.1	5
	無回答	0.7	3
問17-5. (2)【現実】			441
	仕事を優先	54.2	239
	生活(趣味や家庭での時間など)を優先	10.2	45
	仕事と生活をバランスよく	29.3	129
	わからない	5.4	24
	無回答	0.9	4
<p>●ワーク・ライフ・バランスについては、【希望】が「仕事と生活をバランスよく」で76.2%と最も高くなっている一方で、【現実】は「仕事を優先」が54.2%と最も高いものの、3割近くの方は「仕事と生活をバランスよく」(29.3%)と回答している。</p>			
問18. 女性が職業をもつことについて			965
	女性は職業をもたないほうがよい	1.1	11
	結婚するまで職業をもち、結婚とともに辞めるほうがよい	3.5	34
	結婚しても職業をもち続け、子どもができた後辞めるほうがよい	6.9	67
	結婚しても職業をもち続け、子どもができた後辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい	34.9	337
	結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい	35.4	342
	その他	7.7	74
	わからない	5.4	52
	無回答	5.0	48
<p>●女性が職業をもつことについては、「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」(35.4%)が最も高く、次いで「結婚しても職業をもち続け、子どもができた後辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい」(34.9%)となっている。</p>			
問19. 女性が活躍できる仕事・職場環境にするために必要なこと			965
	職場のトップが女性の活躍の促進に積極的であること	34.6	334
	上司や同僚が、女性が働くことに理解があること	66.7	644
	育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること	69.1	667
	長時間労働の必要がないことや、勤務時間が柔軟であること	50.7	489
	身近に活躍している女性(ロールモデル)がいること	16.5	159
	仕事が適正に評価されること	50.9	491
	仕事の内容にやりがいがあること	44.1	426
	その他	4.5	43
	無回答	5.3	51
<p>●女性が活躍できる仕事・職場環境にするために必要なことについては、「育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」が69.1%と最も高く、次いで「上司や同僚が、女性が働くことに理解があること」が66.7%となっている。</p>			

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果	回答割合 (%)	回答件数
問20. 女性が出産や介護による離職をしないために必要なこと		965
保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備	80.4	776
介護支援サービスの充実	61.6	594
家事・育児支援サービスの充実	45.1	435
男性の家事参加への理解、意識改革	47.4	457
女性が働き続けることへの周囲の理解、意識改革	48.6	469
働き続けることへの女性自身の意識改革	26.0	251
男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	38.1	368
職場における育児・介護との両立支援制度の充実	54.4	525
短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	45.3	437
育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	38.4	371
その他	1.9	18
特にない	1.2	12
無回答	4.6	44
<p>●女性が出産や介護による離職をしないために必要なことについては、「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」が80.4%と最も高く、次いで「介護支援サービスの充実」(61.6%)、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(54.4%)となっている。</p>		
問21. 離職した女性の再就職について		965
これまでの知識・経験・資格等を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する	57.3	553
仕事と家事・育児・介護の両立しやすさを重視し、正社員として再就職する	56.3	543
これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する	43.8	423
家事・育児・介護の経験を生かした仕事により、地域に貢献する(ヘルパー、保育補助、家事代行など)	17.4	168
これまでの経験を生かして、ボランティアやNPO活動で地域に貢献する(育児・介護ボランティア、PTA、防災・治安パトロール、環境を守る活動など)	16.6	160
これまでの経験を生かして、起業又はNPOの立ち上げを行う(小売店経営、IT企業設立、ボランティア、NPO団体設立など)	7.9	76
家事以外で活動する必要はない	1.5	14
その他	3.9	38
特にない	3.0	29
無回答	5.3	51
<p>●離職した女性の再就職については、「これまでの知識・経験・資格等を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」が57.3%と最も高く、次いで「仕事と家事・育児・介護の両立しやすさを重視し、正社員として再就職する」が56.3%、「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」が43.8%となっている。</p>		
問22. 市民活動①まつりなどの交流事業		965
参加している(参加していた)	33.4	322
今後参加したい	8.3	80
参加したことがない	43.3	418
今後参加したくない	5.7	55
無回答	9.3	90
問22. ②公園や道路の清掃活動		965
参加している(参加していた)	28.1	271
今後参加したい	8.9	86
参加したことがない	47.6	459
今後参加したくない	4.7	45
無回答	10.8	104
問22. ③スポーツ・レクリエーション活動		965
参加している(参加していた)	21.9	211
今後参加したい	9.6	93
参加したことがない	51.5	497
今後参加したくない	6.4	62
無回答	10.6	102
問22. ④防災活動		965
参加している(参加していた)	22.9	221
今後参加したい	12.5	121
参加したことがない	49.2	475
今後参加したくない	3.7	36
無回答	11.6	112

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果	回答割合 (%)	回答件数
問22. ⑤リサイクル, 緑化, 園芸などの環境に関わる活動		965
参加している(参加していた)	13.3	128
今後参加したい	11.0	106
参加したことがない	58.3	563
今後も参加したくない	4.4	42
無回答	13.1	126
問22. ⑥子育て支援活動		965
参加している(参加していた)	7.4	71
今後参加したい	8.1	78
参加したことがない	66.7	644
今後も参加したくない	5.2	50
無回答	12.6	122
問22. ⑦障がい者や高齢者の支援活動		965
参加している(参加していた)	8.2	79
今後参加したい	8.6	83
参加したことがない	65.6	633
今後も参加したくない	4.9	47
無回答	12.7	123
問22. ⑧防犯活動		965
参加している(参加していた)	9.1	88
今後参加したい	10.4	100
参加したことがない	63.9	617
今後も参加したくない	3.8	37
無回答	12.7	123
問22. ⑨町内会・自治会などのコミュニティ活動		965
参加している(参加していた)	32.7	316
今後参加したい	8.7	84
参加したことがない	44.0	425
今後も参加したくない	4.9	47
無回答	9.6	93
問22. ⑩子ども会やPTAなどの青少年育成活動		965
参加している(参加していた)	23.0	222
今後参加したい	5.3	51
参加したことがない	53.8	519
今後も参加したくない	5.6	54
無回答	12.3	119
問22. ⑪文化・芸術活動		965
参加している(参加していた)	10.6	102
今後参加したい	12.3	119
参加したことがない	58.9	568
今後も参加したくない	5.0	48
無回答	13.3	128
問22. ⑫その他		965
参加している(参加していた)	1.1	11
今後参加したい	2.0	19
無回答	96.9	935
問22-1. いずれの市民活動にも参加したことがない理由		237
仕事が忙しい	36.3	86
家事・育児・介護等で忙しい	6.3	15
自分の健康上の理由	15.6	37
活動に興味がない	24.5	58
人間関係がわずらわしい	24.5	58
参加したいが家族の理解が得られない	0.8	2
どんな活動があるかわからない	35.4	84
参加方法がわからない	24.5	58
参加したい活動がない	10.5	25
その他	5.9	14
無回答	3.4	8

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果	回答割合 (%)	回答件数
問22-2. 市民活動における男女の協力		569
ほとんど対等に協力しあっている	21.4	122
それぞれの持ち分を分担し、協力しあっている	36.9	210
男性が主体となっており、女性はあまり参加していない	4.2	24
女性が主体となっており、男性はあまり参加していない	9.8	56
実質的には女性が担っているが、代表・役員には男性が就いている	9.1	52
その他	1.1	6
わからない	11.8	67
無回答	5.6	32
<p>●いずれの市民活動も「参加したことがない」割合が最も高くなっているが、その理由としては、順に「仕事が忙しい」(36.3%)、「どんな活動があるかわからない」(35.4%)となっている。</p> <p>●市民活動における男女の協力については、「ほとんど対等に協力しあっている」と「それぞれの持ち分を分担し、協力しあっている」を合わせた【協力しあっている】の割合が58.3%となっている。</p>		
問23. 自治会や市民活動等の方針決定の場における女性の参画状況		965
まったく参画できていない	4.9	47
あまり参画できていない	16.8	162
ある程度参画できている	21.1	204
十分に参画できている	4.5	43
わからない	42.0	405
その他	0.5	5
無回答	10.3	99
<p>●自治会や市民活動等の方針決定の場における女性の参画状況については、「わからない」が最も多く、42.0%となっている。</p>		
問24. 女性のリーダーが増えた場合の効果や影響		965
多様な視点加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される	54.8	529
人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	39.4	380
女性の声が反映されやすくなる	49.5	478
ジェンダー・ギャップ指数が上昇することなどにより、国際社会からの評価が現在より上がる	17.0	164
男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	60.6	585
男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	37.6	363
労働時間の短縮など働き方の見直しが進む	23.8	230
男性の家事・育児などへの参加が増える	24.7	238
今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる	3.2	31
男性のポスト(地位・役職)が減り、男性が活躍しづらくなる	4.1	40
保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する	11.5	111
その他	2.0	19
特になし	1.9	18
わからない	5.1	49
無回答	5.6	54
<p>●女性のリーダーが増えた場合の効果や影響については、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が60.6%で最も高く、次いで「多様な視点加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(54.8%)、「女性の声が反映されやすくなる」(49.5%)となっている。</p>		
問25. 過去5年間の配偶者の有無		965
いる(いた)	68.2	658
いない(いなかった)	26.9	260
無回答	4.9	47
問25-1. DVの経験①命の危険を感じるくらいの暴力を受けた		658
何度もあった	0.2	1
1, 2度あった	0.6	4
まったくない	95.7	630
無回答	3.5	23
問25-1. ②医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた		658
何度もあった	0.0	0
1, 2度あった	0.6	4
まったくない	95.6	629
無回答	3.8	25
問25-1. ③医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けた		658
何度もあった	0.6	4
1, 2度あった	2.0	13
まったくない	93.9	618
無回答	3.5	23

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果	回答割合 (%)	回答件数
問25-1. ④大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた		658
何度もあった	6.4	42
1, 2度あった	12.6	83
まったくない	78.9	519
無回答	2.1	14
問25-1. ⑤生活費を渡してくれなかった		658
何度もあった	1.8	12
1, 2度あった	1.4	9
まったくない	93.5	615
無回答	3.3	22
問25-1. ⑥交友関係や電話・メールを細かく監視された		658
何度もあった	1.2	8
1, 2度あった	2.1	14
まったくない	93.0	612
無回答	3.6	24
問25-1. ⑦危害が加えられるのではと恐怖を感じるほどの脅しを受けた		658
何度もあった	0.8	5
1, 2度あった	1.8	12
まったくない	94.1	619
無回答	3.3	22
問25-1. ⑧何を言っても無視され続けた		658
何度もあった	1.7	11
1, 2度あった	6.7	44
まったくない	88.8	584
無回答	2.9	19
問25-1. ⑨あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された		658
何度もあった	0.6	4
1, 2度あった	1.8	12
まったくない	93.5	615
無回答	4.1	27
<p>●過去5年間に配偶者がいる(いた)方のうち、DVの経験についてはいずれの項目も「まったくない」が最も高くなっているが、「④大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」は「何どもあった」が6.4%、「1,2度あった」が12.6%で、他の項目より【経験あり】の割合が高くなっている。</p>		
問25-2. DVを受けた時の相談先		156
配偶者暴力相談支援センター(DV相談室、婦人相談所その他の施設)	0.0	0
警察	0.6	1
法務局・地方法務局、人権擁護委員	0.0	0
男女共同参画センター	0.0	0
上記(1~4)以外の公的な機関	0.0	0
民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセリング機関、民間シェルターなど)	1.3	2
医療関係者(医師、看護師など)	1.3	2
学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)	0.0	0
家族や親戚	21.2	33
友人・知人	26.9	42
その他	1.9	3
どこ(だれ)にも相談しなかった	48.7	76
無回答	8.3	13
問25-3. 相談しなかった理由		76
どこに(だれに)相談したらよいかわからなかった	2.6	2
相談しても無駄だと思った	17.1	13
相談したことがわかると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った	1.3	1
自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った	9.2	7
世間体が悪い	2.6	2
他人を巻き込みたくない	9.2	7
そのことについて思い出さなくなかった	2.6	2
自分にも悪いところがある	34.2	26
相手の行為は愛情の表現だと思った	6.6	5
相談するほどのことではないと思った	60.5	46
だれにも話す気持ちになれなかった	21.1	16
その他	3.9	3
無回答	2.6	2
<p>●DVを受けた時の相談先については、「友人・知人」が26.9%、「家族や親戚」が21.2%でとなっているが、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が48.7%と最も多く、半数近くになっている。</p> <p>●相談しなかった方の理由については、「相談するほどのことではないと思った」が60.5%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがある」が34.2%となっている。</p>		

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果	回答割合 (%)	回答件数
問26. 過去5年間の交際相手の有無		965
いる(いた)	21.6	208
いない(いなかった)	59.5	574
無回答	19.0	183
問26-1. DVの経験①命の危険を感じるくらいの暴力を受けた		208
何度もあった	0.5	1
1, 2度あった	0.0	0
まったくない	98.6	205
無回答	1.0	2
問26-1. ②医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた		208
何度もあった	0.0	0
1, 2度あった	0.5	1
まったくない	99.0	206
無回答	0.5	1
問26-1. ③医師の治療が必要とされない程度の暴行を受けた		208
何度もあった	0.5	1
1, 2度あった	0.5	1
まったくない	99.0	206
問26-1. ④大声でどなられたり、ことばによる暴力を受けた		208
何度もあった	3.4	7
1, 2度あった	7.7	16
まったくない	88.9	185
問26-1. ⑤金銭的な依存や強要を受けた		208
何度もあった	1.4	3
1, 2度あった	3.8	8
まったくない	94.7	197
問26-1. ⑥交友関係や電話・メールを細かく監視された		208
何度もあった	1.4	3
1, 2度あった	3.4	7
まったくない	95.2	198
問26-1. ⑦危害が加えられるのではと恐怖を感じるほどの脅しを受けた		208
何度もあった	0.5	1
1, 2度あった	1.4	3
まったくない	98.1	204
問26-1. ⑧何を言っても無視され続けた		208
何度もあった	1.4	3
1, 2度あった	4.8	10
まったくない	93.8	195
問26-1. ⑨あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された		208
何度もあった	0.0	0
1, 2度あった	1.4	3
まったくない	98.1	204
無回答	0.5	1
<p>●過去5年間に交際相手がいる(いた)方のうち、DVの経験についてはいずれの項目も「まったくない」が最も高くなっているが、「④大声でどなられたり、ことばによる暴力をあげられた」で、「何どもあった」が3.4%、「1,2度あった」が7.7%と、配偶者からのDV経験と同じく、他の項目より【経験あり】の割合が高くなっている。</p>		

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果	回答割合 (%)	回答件数
問27. 過去5年間のセクシュアル・ハラスメントの有無		965
自分自身が被害にあったことがある	2.4	23
友人や職場の仲間など、自分の周りに被害にあった人がいる	5.2	50
自分や自分の周りに被害にあった人はいない	53.3	514
わからない	12.8	124
無回答	26.7	258
問27-1. 対応・相談先		69
相手に直接抗議した	24.6	17
家族や友人に相談した	26.1	18
職場や学校に相談した	24.6	17
公的機関や民間の相談機関に相談した	4.3	3
がまんした(何もしなかった)	29.0	20
その他	17.4	12
無回答	1.4	1
<p>●セクシュアル・ハラスメントの被害を自身が受けた、周りの人が受けたと回答された方のうち、対応・相談先については、「相手に直接抗議した」が24.6%、「家族や友人に相談した」が26.1%、「職場や学校に相談した」が24.6%となっている一方で、「がまんした(何もしなかった)」が29.0%となっている。</p>		
問28. 取組の認知①芦屋市男女共同参画推進条例		965
言葉も内容も知っている	4.0	39
言葉を聞いたことがある	32.7	316
知らない・聞いたことがない	57.0	550
無回答	6.2	60
問28. ②第3次芦屋市男女共同参画行動計画ウィザース・プラン		965
言葉も内容も知っている	2.0	19
言葉を聞いたことがある	16.8	162
知らない・聞いたことがない	74.1	715
無回答	7.2	69
問28. ③芦屋市配偶者等からの暴力対策基本計画(芦屋市DV対策基本計画)		965
言葉も内容も知っている	2.4	23
言葉を聞いたことがある	13.6	131
知らない・聞いたことがない	76.2	735
無回答	7.9	76
問28. ④芦屋市男女共同参画センターウィザースあしや		965
言葉も内容も知っている	4.7	45
言葉を聞いたことがある	28.5	275
知らない・聞いたことがない	59.9	578
無回答	6.9	67
問28. ⑤男女共同参画週間記念事業		965
言葉も内容も知っている	1.6	15
言葉を聞いたことがある	10.8	104
知らない・聞いたことがない	80.1	773
無回答	7.6	73
問28. ⑥芦屋市男女共同参画センター通信「ウィザース」		965
言葉も内容も知っている	2.8	27
言葉を聞いたことがある	18.2	176
知らない・聞いたことがない	71.7	692
無回答	7.3	70
問28. ⑦芦屋市男女共同参画団体協議会		965
言葉も内容も知っている	2.0	19
言葉を聞いたことがある	16.6	160
知らない・聞いたことがない	74.3	717
無回答	7.2	69
問28. ⑧女性の悩み相談(心の悩み, 家事調停, 法律相談)		965
言葉も内容も知っている	7.7	74
言葉を聞いたことがある	27.8	268
知らない・聞いたことがない	57.4	554
無回答	7.2	69
問28. ⑨芦屋市DV相談室(芦屋市配偶者暴力相談支援センター)		965
言葉も内容も知っている	5.3	51
言葉を聞いたことがある	24.7	238
知らない・聞いたことがない	62.8	606
無回答	7.3	70
<p>●様々な取組の認知状況については、いずれの項目も「知らない・聞いたことがない」が最も高くなっている。 ●「言葉も内容も知っている」と「言葉を聞いたことがある」を合わせると、「①芦屋市男女共同参画推進条例」が36.7%、「⑧女性の悩み相談(心の悩み, 家事調停, 法律相談)」が35.5%、「④芦屋市男女共同参画センターウィザースあしや」が33.2%、「⑨芦屋市DV相談室(芦屋市配偶者暴力相談支援センター)」が30.0%で、これら4項目のみ3割以上となっていて、啓発の重要性を再認識する結果となっている。</p>		

芦屋市 男女共同参画に関する市民意識調査／単純集計結果	回答割合 (%)	回答件数
問29. 男女共同参画に関する「ことがら」の見聞き		965
男女共同参画社会基本法	26.7	258
男女雇用機会均等法	57.7	557
DV防止法	53.2	513
ストーカー規制法	62.0	598
女性活躍推進法	16.9	163
女子差別撤廃条約	14.3	138
ジェンダー	37.2	359
ワーク・ライフ・バランス	27.8	268
ポジティブ・アクション	5.4	52
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	3.1	30
デートDV	17.9	173
見たり聞いたりしたものはない	15.6	151
無回答	11.1	107
<p>●男女共同参画に関する「ことがら」の認知度について、「ストーカー規制法」が62.0%で最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」が57.7%、「DV防止法」が53.2%の順で、これら4項目のみ5割を超えている。その他の項目では、「ジェンダー」が37.2%、「ワーク・ライフ・バランス」が27.8%、「男女共同参画社会基本法」が26.7%にとどまっているため、更に周知が必要な結果となっている。</p>		
問30. 今後、男女がさらに対等な社会となるために、重要なこと		965
法律や制度の見直し・強化(仕事と生活の両立支援, 雇用均等, 女性登用等)	49.8	481
国・自治体の審議会委員や管理職など, 政策決定の場に女性を積極的に登用する	35.6	344
民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する	33.5	323
これまで女性が少なかった分野(研究者等)への女性の進出を支援する	31.9	308
労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める	48.4	467
保育の施設・サービス, 高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	59.7	576
子育てや介護中であっても, 仕事が続けられるようにする	51.0	492
子育てや介護等で, いったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	58.3	563
女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	18.9	182
男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する	16.4	158
男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	18.4	178
その他	2.8	27
特にない	4.0	39
無回答	6.2	60
<p>●今後、男女がさらに対等な社会となるために、重要なことについては、「保育の施設・サービス, 高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が59.7%と最も高くなっている。次いで「子育てや介護等で、いったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(58.3%)が高くなっていて、再就業・起業等の相談を平成29年1月から試行実施する女性活躍コーディネーターの役割が重要であると認識した。</p>		